

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	災害復興制度研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 日本災害復興学会のベースキャンプとしての拠点性を確立する。	→日本災害復興学会との共同研究数・共同イベント数および主催数。	B	B			
2. 研究所を全学的な組織体制で運営する。	→研究所運営に協力する学部・研究科の数および研究所運営委員としての学部・研究科の教員数。学内研究員の数。学外研究員の数。	C	B			
3. 研究所専従の専任研究員を増員する。	→研究所専従の専任研究員数。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
東日本大震災後の復興に対して本研究所が提起する「人間復興」の理念を実現するために、あらゆる機会を通じて、政府を含む関係諸組織に働きかける。(新規挿入)	→福島県避難者総合支援プロジェクト遂行のための研究会・調査・イベント等の数(新規挿入)					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 東日本大震災を本研究所が提唱する「人間復興」の理念の実現の契機ととらえ、あらゆる機会を通じて、関係諸機関・社会に訴え、その有効性を発信し、政策提言を行っているが、それは本研究所の理念・目的に照らして適切である。
小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) <input checked="" type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→ (説明) 従来の研究・調査を本年度設置した新たな「目標」実現のために、一部組織を変更し、適切な新たな対応を以下のように採っている。①東日本大震災復興支援研究会(月2回)②福島県避難者総合支援プロジェクト(この中に福島大学災害復興研究所との合同研究会<月1回>および大学公募共同研究を含む)③調査(双葉8ヶ町村避難者悉皆調査・広域避難者受入自治体悉皆調査・広域避難者支援団体悉皆調査)④トラウマ・ケア講習会⑤イベント(省略)
その他	

《評価指標データ》

- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★ 小項目4.0.1	①執筆・出版・刊行（室崎単1件・山中単8件・室崎等共2件・山中単著『漂流被災者－「人間復興」の為の提言』河出） ②テレビ・ラジオ・招待講演・委員（室崎単14件・山中単8件・共同2件）③新聞掲載記事32件④東日本大震災復興シンポジウム（6月11日）⑤トラウマ・ケア関学・東北研修会（5月29日・31日・6月1日・2日＜明治大学＞）⑥東日本大震災復興支援研究会（東京3回・関西3回）⑦社会再生研究会（2回）⑧トリアージ研究会（2回）⑨東日本大震災復興に向けて 現地報告とシンポジウム（4月9日）
小項目4.0.2	
その他	災害復興学入門の内容を一部「東日本大震災で起きたこと」として変更

↓

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★ 小項目4.0.1	これまでの課題でもあったが至急適切な准教授・専任研究員の採用が必要である。
小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★ 小項目4.0.1	本研究所の役割からして、緊急対応の予算措置が必要であり、学長施策費や共同研究費からの支出が可能な枠組みの設定を大学として提案する必要がある。今年度の緊急事態への対応が最低限ではあるが可能となったので、これを一つの先例として認めることも必要であろう。
小項目4.0.2	
その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★ 小項目4.0.1	准教授・専任研究員の迅速な雇用が可能となるように学長室との連絡を密にとる必要がある。
小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	来年度もまた東日本大震災の研究と本研究所の理念・目標の実現に向けて「人・もの・金」が必要であり、そのための仕組みをぜひ大学として考慮していただきたい。
--------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

○東日本大震災は大変な災害ですが、本研究所がその復興に貢献していることが評価できます。目標の2の全学的な組織体制で運営することの進捗評価がCからBに上がったのは評価できます。

○積極的に執筆・出版活動を行っている点は評価できます。ただ、この項目においても東日本大震災以降の記述が多いため、2010年度の活動報告としては不適切な部分も多いと思われます。2010年度の活動に限定した記述を求めます。また、人事案件に関する予算措置の要望などを本報告シートに記載するのは不適切だと思われます。

○目標実現のため、一部組織を変更したことは評価されます。

○活発な活動が伺えます。

○自由記述欄における記述内容は、自己点検・評価報告としては好ましくなく、いかがなものかと思えます。

○2010年度以降に設定した「目標」「指標」を追加されています。2011年度からの目標として取り扱いますが、制度的には既に案内のとおり本年12月以降の受付となります。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1
基盤評価：なし
達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ 特になし。